

- (1) 突入・労働裁判
- (2) 特集
- (3) 大牟田豪雨災害
- (4) 建設アスベスト
神奈川2陣判決集会

SOLIDARITE 「連帯」 ソリダリテ

建交労大牟田支部通信

(No. 52)

労働相談から二つの裁判へ突入！

①は、長距離トラックドライバーの賃金未払い請求事件。

②は、塗装業で働いてきた青年の賃金未払い事件。

①は、今や社会問題になっている長時間労働の犠牲。

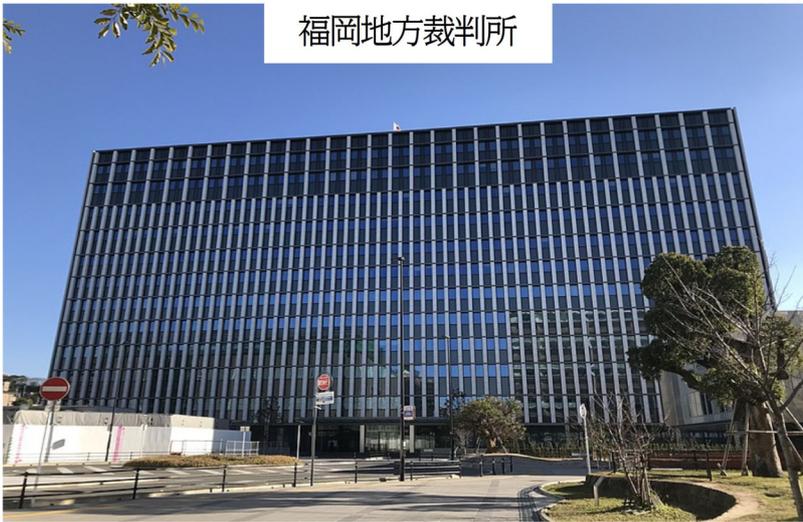
②は、指定暴力団の威力

三ツツモ悪徳企業三ツツモ負ケナイ建交労

昨年から取り組んできた労働相談2件は、①福岡地方裁判所の柳川簡易裁判所へ提訴を行いました。

①は、長距離トラックドライバーの賃金未払い請求事件。

②は、塗装業で働いてきた青年の賃金未払い事件。



福岡地方裁判所

第一法律事務所
の敏腕弁護士の代理
人とし、巨額な賃金未払い
分を請求。
又、柳川簡易裁判所への少額訴訟は

柳川簡易裁判所



当該指定暴力団が覚せい剤取締法などで家宅捜査中の直近の情勢をよきタイムリミットとして提訴して

当該指定暴力団が覚せい剤取締法などで家宅捜査中の直近の情勢をよきタイムリミットとして提訴して

現段階では、両裁判所からの期日の指定待ちですが、あらゆる手立てを講じて勝利し、労働者が人たるに値する価値がある事を前面に押し出して完全勝利を目指します。

一生懸命汗水たらし真面目に働いている労働者を愚弄する勢力に真正面から対決します。

じかたび

コロナ禍にあっても仲間たちの苦難は数えきれないほどある。そんな時こそ組合員の結束力が試される。令和2年7月豪雨災害では建交労の「宝」が発揮された。

「わしらの宝」

1. いきるためだと笑った顔に流れる汗がひかっていたこの仕事、この仲間、かけがえのない、わしらの宝
2. まけるものと腕くみあつて子供のためにたたくてきたこの力が、この組合がかけがえのない、わしらの宝
3. ※おばさんたちをみてみると※苦勞してきた暗さがないね※この底抜けの明るさは※いったいどこからくるのだろうか
4. この底抜けの明るさがかけがえのない、わしらの宝
5. 失業貧乏と戦争なくせうたいつづける世直し音頭この姿が、この歴史がかけがえのない、わしらの宝

老いも若きもスクラムくんで明るい大きなあしたをめざすこのねがいが、この団結がかけがえのない、わしらの宝

～レポート～災害を共に乗り越えよう

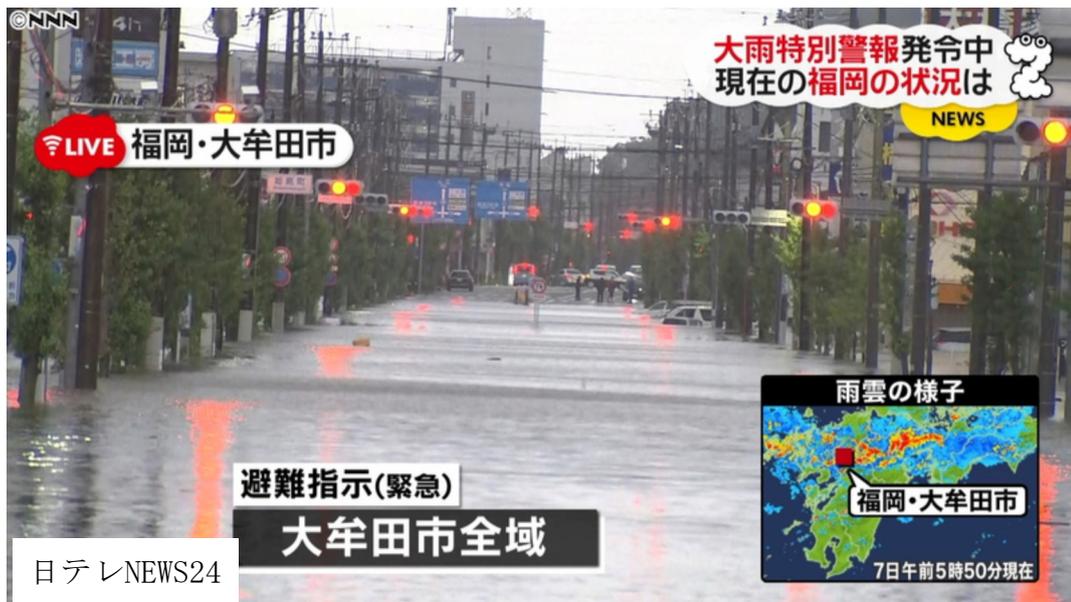
令和2年豪雨災害（激甚災害）



毎日新聞

前号でもお伝えしました大牟田大水害（正式名称…令和2年7月豪雨災害）は、国から「激甚災害」の認定を受けました。

●被害状況
死者2名、重傷者1名、継承者3名、全壊12世帯、大規



模半壊1世帯、半壊10世帯、準半壊13世帯、一部損壊762世帯、道路被害損壊196

避難指示(緊急)
大牟田市全域

日テレNEWS24

前号でもお伝えした通り、建交労大牟田支部の組合員や家族にも甚大な被害が出ており、支部一丸となつて生活復旧に奮闘しています。住家に大きな被害を受け「床上浸水半壊」

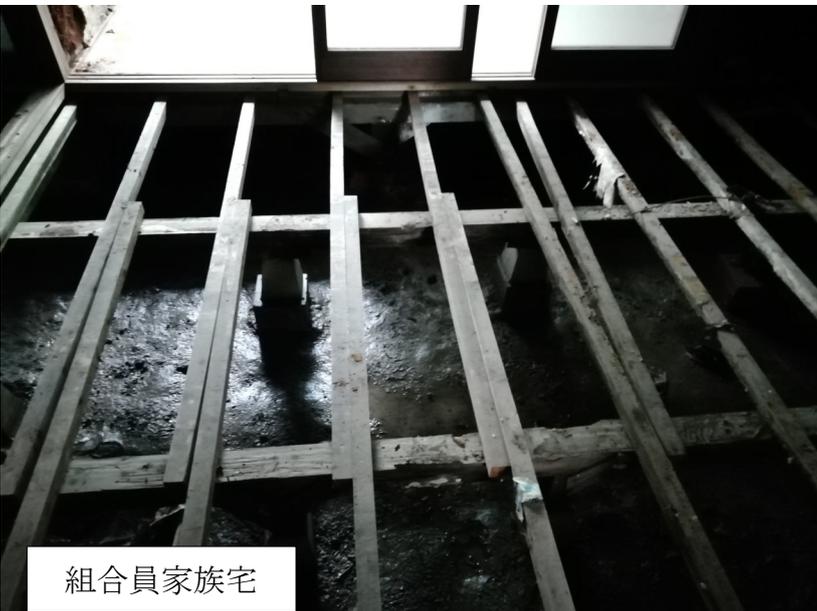
（8月23日時点）である。大牟田市もここまでするとは想定していなかった。

か所、埋没11か所、橋梁損壊3か所、河川溢水12か所、施設損壊36か所、土砂災害・がけ崩れ111か所、地滑り4か所、農林水産業被害約12.8億円、商工業被害約36億円、

の認定となつた組合員は、何十年の間そこで暮らし、生活だけでなく、組合活動にも精を出していた。そんな当たり前の生活が、7月6日一瞬にして奪われました。

組合の仲間たちの援助を受け、公的機関の支援制度の申請をしながら、みなし仮設と称される市営住宅に一時的に非難し、9月1日にこれからの新しい生活の場となる物件に入居した。

ただ、うしても解せないのが自治体の対応の遅さと市・県の協議が遅れ、災害マニュアルにもキツチあり謳つてある被災者の見舞



組合員家族宅

いや公費解体も未だ決まらずにいる。

私たちが建交労は、それを待つてはいられない、被災者の1日も早い生活再建が最優先である。

こんな時に露になる自治体職員の非正規公務員化と人員削減、予てより主張してきた大牟田市保健所の必要性に、自治体自身が後戻りできない大事をしてきたのである。

建交労大牟田支部は、大牟田市社会保障推進協議会のメンバーとして、寄せられた被災者の声に耳を傾け、8月9日大牟田市歴木へ家屋解体を前提とした被災家具撤去作業に入った。

新型コロナウイルスが猛威を振るう中、ボラン

ティアもできる限り「密」を避けなければならぬ。1日1日の作業を短時間で終える必要があります。息の長い活動になります。

まずは、被災家具や被災ごみの分別作業から入り、仮処分場への荷物を福建労組合員の軽トラへ

原爆犠牲者の鎮魂と原爆許すまじと胸に刻んだ。

この災害復旧は、新型コロナウイルスとのたたかいの中で展開されるため、物凄く息の長いものになります。

しかし、私たち建交労は「市民の駆け込み寺」

でありたい一心で地元の復旧に努めます。

そして被災した組合員らに、今回の豪雨災害について聞いたところ、被災家具などの分別や撤去、救済制度についての自治体への交渉力に驚きと、建交労大牟田の価値を「建交労でよかった」と語られていました。



す。普通、コンパネを用い、荷積みの高さを稼ぎますが、重要なコンパネが無い：しかし、プロの建設職人は、被災家具をコンパネ代わりに荷台の両端に積み、相当量の荷物を運んだ。また、私たちとは別の「若つかもんチーム」と共同作業で軽トラ3台で仮処分場へ3往復しました。

そんな時、11時2分の長崎原爆投下のサイレンが、大牟田市立歴木中学校から鳴り、合掌し



福岡県本部直伝の「仲間の事は我が事」この精神がこんな時に発揮されるのだと思います。まだまだ時間がかかる市民の苦難軽減と解決のために、私たち建交労は、老若男女問わず結束していくのであります。



最後に、改めて全国の仲間たちからの温かい励ましの声が被災者らの元気の源になります。

これからどうか、仲間たちから支えられる建交労でありたいと、感謝を込めてお礼と代えさせていただきます。「本当にありがとうございます」

建設アスベスト神奈川2陣

デジタルの労災認定の大きな誤り



8月28日、建設アスベスト神奈川第2陣控訴審判決が東京高裁で言い渡される日、私たちは連帯集会を博多バスターミナルでその模様を今か今かと待ち望んでいた。

この会場には、アスベストの患者や遺族などで構成するあさが九州社会医学研究所の田村医師から、厚労省から降りてきていたデジタル標準写真の誤りと長崎大の芦沢班が誤りを認めず、CT画像を基準とした標準写真を導入しようとする企みについて講演なさいました。これまで全国の労職組織がじん肺管理区分1で帰ってきていた事の謎解きにもなったように思える。

おの会が主催し、判決が出る前に、

田村医師は、デジタル標準写真で管理1に満たない0/1判定は、かつてのフィルム版では1/0であった事が分り、労災を認めさせない策動があるのではないか？

と提起されました。建交労大牟田支部がじん肺管理区分1を2件覆したことは、非常に大きな問題提起を労働行政に知らしめたのだと思います。

時間は14時を大きく回り、建設アスベスト神奈川2陣控訴審判決の瞬間が来ました。東京高裁から駆け出してきた弁護団が手にした断幕は①国に13連勝！②建材メーカー3社を断罪！③一人親方も勝利！と実は個別訴訟も含め国に13連勝してしました。

アスベスト被害が世に認知され司法も認めざるを得ない一大社会

駆けつけた各支援団体がそれぞれに挨拶し、建交労からは、築炉じん肺がいよいよ大詰めに来ている。建設アスベストの様に大勝利を収めて、酒は呑めないが勝利の美酒に酔ってみたいと激励の挨拶をしました。



<行事予定>

- 9月 1日(火) 9:30~姫路労基労災調査(大牟田労基)
- 4日(金) 10:00~労職部会総会通信テスト
- 5日(土) 10:30~第8回県本部執行委員会
- 9日(水) 10:00~全国労職部会総会・ZOOM会議
- 10日(木) 10:00~築炉じん肺弁護団会議
- 17日(木) 8:30~支部執行委員会
- 13日(日) 10:00~福岡県本部定期大会
- 24日(木) 14:00~九州建設アスベスト第2陣訴訟第8回期日

- 健康相談会 (8月末時点)
- ・石綿健康管理手帳... 4名
 - ・じん肺管理区分4... 1名
 - ・じん肺管理区分2... 2名
 - ・じん肺合併症決定... 2名
 - ・合併症申請予定... 3名
 - ・遺族補償決定... 1名
 - ・CO患者遺族補償開示請求... 1名
 - ・石綿労災認定待ち... 1名
 - ・石綿健康管理手帳申請... 1名